

# 国土のグランドデザイン2050

## ～対流促進型国土の形成～

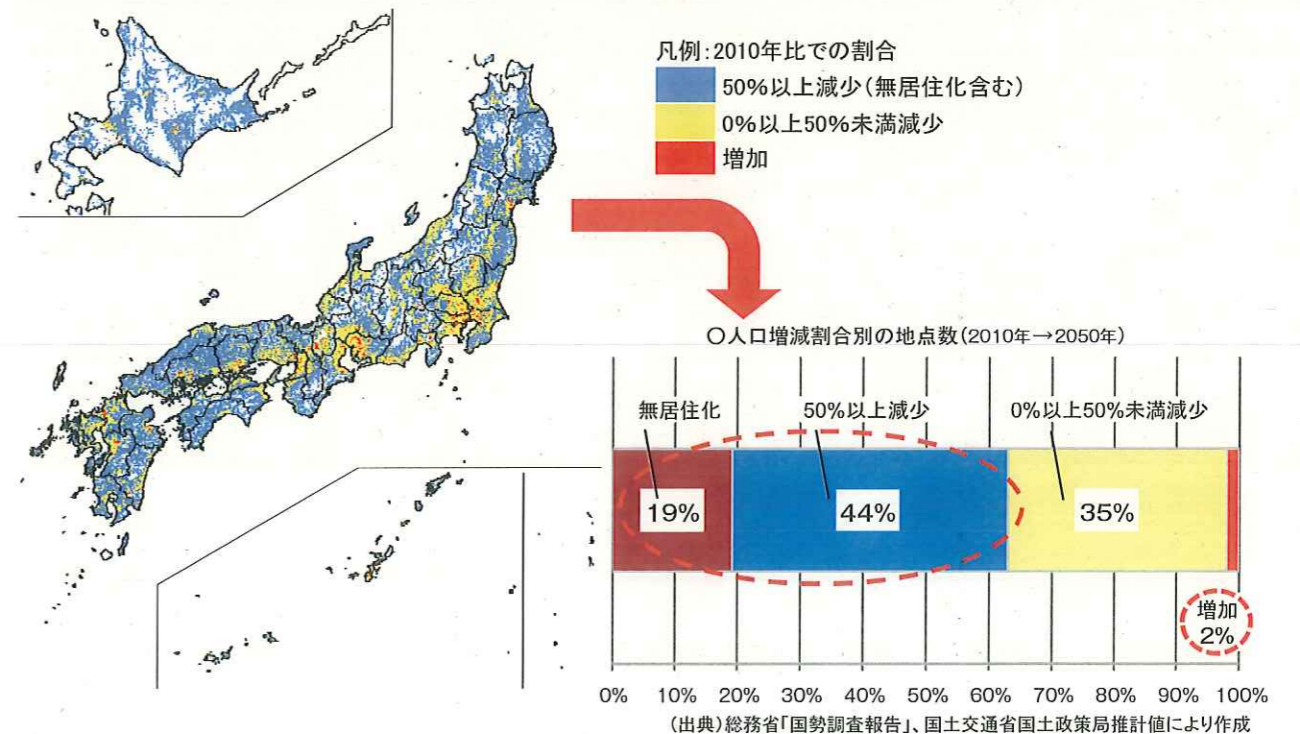
「国土のグランドデザイン2050 ～対流促進型国土の形成～」は、本格的な人口減少社会の到来、巨大災害の切迫等に対する危機意識を共有しつつ、2050年を見据え、未来を切り開いていくための国土づくりの理念・考え方を示すものです。

### 時代の潮流と課題

- ① 急激な人口減少、少子化
- ② 異次元の高齢化の進展
- ③ 都市間競争の激化などグローバル化の進展
- ④ 巨大災害の切迫、インフラの老朽化
- ⑤ 食料・水・エネルギーの制約、地球環境問題
- ⑥ ICTの劇的な進歩など技術革新の進展

- ▶ 全国を1km<sup>2</sup>のメッシュで見ると、人口が半分以下になる地点が現在の居住地域の6割以上。2割は人が住まなくなる。
- ▶ 人口が増加する地点の割合は約2%であり、主に大都市圏に分布。

【2010年を100とした場合の2050年の人口増減状況】



### 日本海・太平洋2面活用型国土

日本海側・内陸部の軸等の活用による代替性の確保

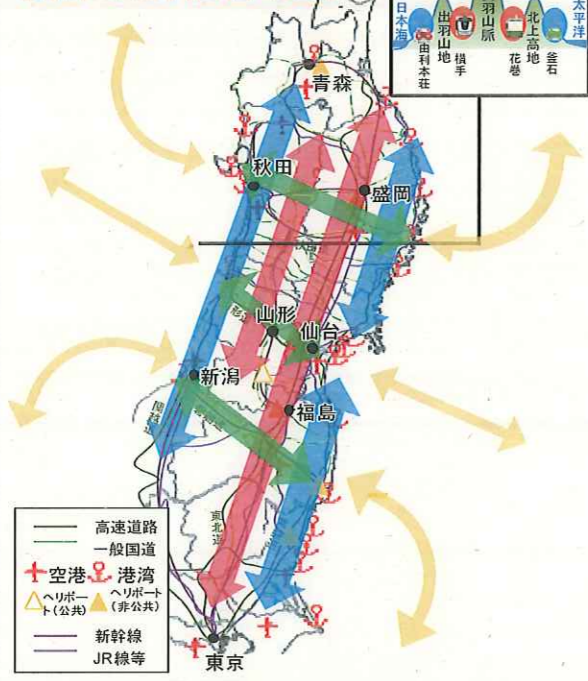


図1 広域交通基盤の代替性・多様性のイメージ

### 多様なモードの活用による輸送

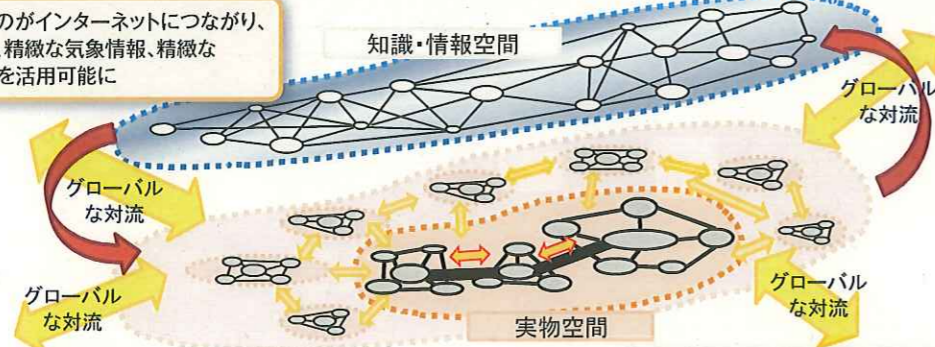


図2 被災後のガソリン・軽油の輸送状況

### 目指すべき国土の姿

- 地球表面の**実物空間**（「2次元的空间」）と**知識・情報空間**が融合した、いわば「**3次元的空间**」
- 数多くの小さな対流が創発を生み出し、大きな対流へとつながっていく、「**対流促進型国土**」

すべてのものがインターネットにつながり、精緻なナビ、精緻な気象情報、精緻な物流情報等を活用可能に



街や交通網などの実物空間に、街の魅力や交通情報などを上乗せすることにより、対流を促進

#### ○ 大都市圏域と地方圏域

- 地方への人の流れを創出し、依然として進展する東京一極集中からの脱却を図る

### 今後の進め方

- 本グランドデザインも踏まえて、直ちに**国土形成計画(全国計画及び広域地方計画)**の見直しに着手



# キーワードは 《コンパクト+ネットワーク》

## コンパクト+ネットワークの意義・必要性

### ① 質の高いサービスを効率的に提供

- 人口減少下において、各種サービスを効率的に提供するためにはコンパクト化が不可欠
- しかし、コンパクト化だけでは、圏域・マーケットが縮小
- このため、ネットワーク化により都市機能に応じた圏域人口を確保

### ② 新たな価値創造

- 人・モノ・情報の高密度な交流が実現し、イノベーションを創出  
→コンパクト+ネットワークにより、**国全体の「生産性」を高める国土構造**

## 多様性と連携による国土・地域づくり

- ① 各地域が「多様性」を再構築し、自らの資源に磨きをかける
- ② 複数の地域間の「連携」により、人・モノ・情報の交流を促進

▶「多様性と連携」を支えるのがコンパクト+ネットワーク

▶コンパクト+ネットワークは、**交通革命、新情報革命**を取り込み、距離の制約を克服するとともに、**実物空間と知識・情報空間を融合させる**

▶交流は、それぞれの地域が多様であるほど活発化(→**対流**)

▶**対流のエンジンは多様性(温度差(地域間の差異)がなければ対流は起こり得ない)**

→常に多様性を生み出していく必要

## 国土づくりの3つの理念

多様性  
「ダイバーシティ」

連携  
「コネクティビティ」

災害への  
粘り強くしなやかな対応  
「レジリエンス」

## 基本戦略

- ① 国土の細胞としての「**小さな拠点**」と、**高次地方都市連合**等の構築
- ② 攻めのコンパクト・新産業連合・価値創造の場づくり
- ③ **スーパー・メガリージョン**と新たなリンクの形成
- ④ **日本海・太平洋2面活用型国土**と圏域間対流の促進
- ⑤ 国の光を観せる観光立国の実現
- ⑥ 田舎暮らしの促進による地方への人の流れの創出
- ⑦ 子供から高齢者まで生き生きと暮らせるコミュニティの再構築
- ⑧ 美しく、災害に強い国土
- ⑨ インフラを賢く使う
- ⑩ 民間活力や技術革新を取り込む社会
- ⑪ 国土・地域の担い手づくり
- ⑫ 戦略的サブシステムの構築も含めたエネルギー制約・環境問題への対応

## 「小さな拠点」



小学校や旧役場庁舎の周辺に日常生活を支える買い物、医療等の「機能」をコンパクトに集積

交通と情報通信によるネットワークで周辺を支える

道の駅、特産品等農業の6次産業化、バイオマスエネルギーの地産・地消により、**新たな雇用**を創出

## 高次地方都市連合

○ 高速道路を活用しない

都市圏の 中心市	都市圏 <sup>*1</sup> 人口(万人)	
	2010年 <sup>*2</sup>	2050年 <sup>*3</sup>
松江市	22.0	15.6
米子市	32.6	20.9

このままでは30万人都市圏が消える



○ 高速道路を活用

都市圏の 中心市	都市圏 <sup>*1</sup> 人口(万人)	
	2010年 <sup>*2</sup>	2050年 <sup>*3</sup>
松江市・米子市	56.0	37.3

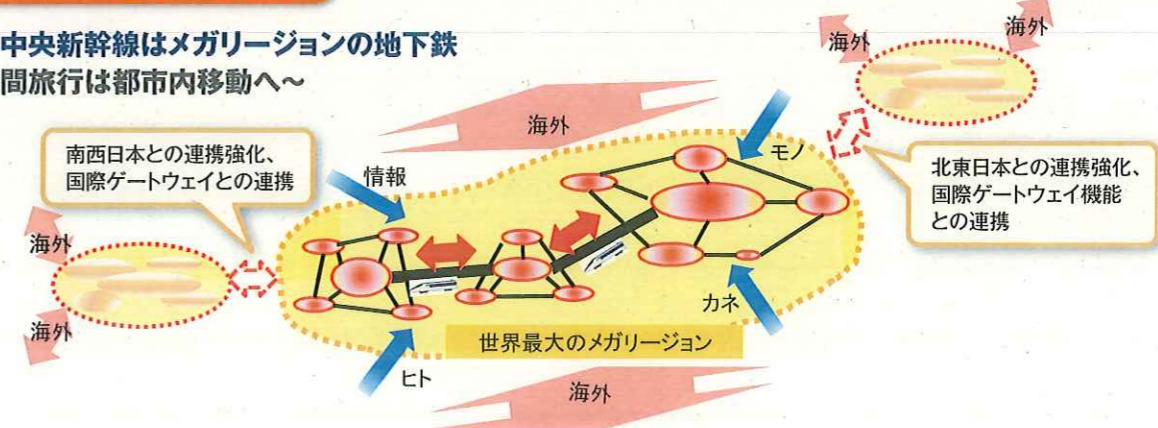
ネットワークにより30万人都市圏を維持



(※1)2010年の人口10万人以上の市を中心市とし、自動車で60分以内の1kmメッシュを都市圏として設定。  
(※2)2010年の人口は総務省「国勢調査」による。(※3)2050年の推計人口は国土交通省国土政策局のメッシュ推計人口による。

## スーパーメガリージョン

リニア中央新幹線はメガリージョンの地下鉄  
～都市間旅行は都市内移動へ～



南西日本との連携強化、国際ゲートウェイとの連携

北東日本との連携強化、国際ゲートウェイ機能との連携